

「肺動脈塞栓症が心機能に与える影響の評価」についてのご説明

●はじめに：

肺動脈塞栓症は死に至る危険性があり、血液検査で血栓症のリスクの高い症例（Dダイマー高値など）では、造影 CT 検査を行い早期発見につとめる場合が多く、肺動脈塞栓症が同定された症例は治療効果の判定や経過観察を目的に経時的に造影 CT 検査を行う場合も多くあります。しかし、現状では病変の分布や大きさなどの形態評価が主で、心機能と肺動脈塞栓症の重症度や予後との関連に関する研究は十分行われていません。突然死に直結する可能性もある肺動脈塞栓症において心機能を含めた病態の総合的な解明は臨床医学の重要課題の一つと考えられます。

●研究対象：

2008年1月1日から2014年11月30日までの間で、本院で肺動脈塞栓症の検査目的に造影 CT 検査を受けた患者さんを対象にしています。

●研究内容：

肺動脈塞栓症の評価のために施行された造影 CT 検査のデータを後ろ向きに解析し、造影 CT の画像から計算される心機能因子（左室容積・右室容積・左室最大内径・右室最大内径）と重症度や予後との関連を評価します。

●患者さんの個人情報の管理について：

- ・本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除しています。
- ・本研究結果の公表の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。
- ・研究の目的以外に被験者のデータを用いません。

●患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について：

2008年1月1日から2014年11月30日までの間で、本院で肺動脈塞栓症の検査目的に造影 CT 検査を受けた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。

●研究期間：

（病院長承認日）から2016年3月31日まで

●医学上の貢献：

研究成果は肺動脈塞栓症の CT による初期の心機能評価が肺動脈塞栓症の重症度判定の一助となり、患者さんの治療と予後改善に貢献することが期待されます。

●問い合わせ先：

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 放射線診断学

本院研究責任者 畠中正光 同研究分担者 山直也、小野寺耕一

【平日 TEL (011) 611-2111 内線 3501 (教室)

休日・時間外 FAX (011) 633-6885 (休日明けに連絡を差し上げますので連絡先を明記ください)】